



レインボーネット Rainbow Net

れいんぼーTopics

岩手県内基幹相談支援センター 連絡会を開催!



12月1日に障害児・者一体型施設 新たな郷わかたけにおいて、『岩手県内基幹相談支援センター連絡会』が開催されました。この会は、県内11ヶ所に12の基幹相談支援センターが設置（二戸地区は2事業所）されている中で、情報交換や意見交換の場となっております。今回は岩手県保健福祉部の砂子主事もゲストで参加するなど、8事業所 29名での連絡会となりました。

はじめに地域生活支援拠点つむぎの栗津主任相談支援専門員から『若竹会の事業再編と拠点事例の123』と題して、宮古地区での取り組みを紹介していただき、質疑応答や活発な情報交換、意見交換をした後、施設見学をおこないました。
(担当：佐々木)

目次 CONTENTS

●れいんぼーTopics	1	●はあとふるVoice	7
●年頭にあって	2	●こんにちは、「地域活動支援センターみやこ」です! 新任職員紹介	8~9
●Close-up! 自立支援協議会	3~5	●なんでもKEIJIBAN、編集後記	10
●Report! 「福祉の現場から」	6		

誇らしい日々へ

特定非営利活動法人 宮古圏域障がい者福祉推進ネット

会長 刈屋裕之



初めに、障がい者福祉に関わる関係各位、地域の多くの皆様には、私共「宮古圏域障がい者福祉推進ネット」の日々の活動に對しまして、深いご理解と温かいご支援をいただいておりますことに職員一同、心より感謝申し上げます。

あの忌々しい新型コロナ感染症がやっと下火となってきたと思いましたが、世界の各地での相次ぐ戦火の悲劇、なにやら政

治の世界での不穏なニュースなどが繰り返される荒波の時に新年を迎える事となりました。

しかし、私たちレインボーネットの職員一同は、新たな職員の加入もあり、笑顔を絶やすことなく多くの当事者、ご家族の方々に接し、それぞれの事案でより良い方向性を見つけ出し、そこへ向かうための活動を続けてきました。また併せて多くの研修・学びを重ね、自らの資質の向上に努めて参りました。

さて、「障がい」と言いますが、外から見ると判ることもありますが、外見からは誰にも気付いてもらえない、その人の内側に深くよんでいるケースの方が遙かに多いのです。

そのために周りの人から理解してもらえずに悲しみ、苦しんでいる人たちが沢山居ます。そんな人たちを見逃すことなく苦しみから解き放つためには、周囲の障がいへの理解が是非とも必要です。

ご存じの方もおいでと思いますが、今から五十余年前に日本です。初めて開催された大阪万国博覧会でそのシンボルとなった「太陽の塔」を創られた岡本太郎さんが言っています。

「人間はその数だけ、それぞれ、その姿のまま誇らしくならなければならぬ」と。

本当にその通りだと思えます。

心ならずも障がいを抱えてしまった方も胸を張って、

『僕はここにいますよ。私はこのままです。』

と誇らしく歩むことが出来、周囲からも偏見なく差別されず見守られる社会であればどんなに素敵なことでしょう。レインボーネットでは、これからも多

くの機関と連携しながら広報、啓発に努めたいと考えます。

明日が誰でもどんな人でも「こんにちは」と明るく胸を張ってあいさつしあえる、そんな地域でありますように願います。



クローズアップ
CLOSE-UP!

自立支援協議会

～今年の活動の
成果について～

実務担当者会議

鈴木 翔太さん

(山田町 長寿福祉課 地域福祉係長)

本年度の実務担当者会議では、「(仮称)宮古圏域児童発達支援センター」の設置について、「障がい者福祉計画・障がい児



実務担当者会議

福祉計画の策定について」等を議題として取り上げ協議を進めて参りました。

(仮称)宮古圏域児童発達支援センターについては、令和6年4月から運用開始することで調整を進めています。

障がい者福祉計画・障がい児福祉計画については、策定に際し、ニーズ調査を行いました。調査結果では、福祉に関する情報が十分に得られていない方が多く、障がいの特性に配慮した取得方法が選択でき、スマートフォン等を活用して情報を取得したいという意見が多くありました。福祉に関する情報が、支援が必要な人に行き渡るよう、情報発信や周知方法の充実が求められていることから、検討していく必要があります。

今後、圏域の関係者や事業者の皆様からご指導をいただきながら、障がい福祉施策の充実を図って参ります。

権利擁護部会

吉水 和也さん

(三陸うみねこ法律事務所 弁護士)

権利擁護部会は、法律専門職、障がい・高齢者福祉の専門職、医療機関、行政職など、様々な分野からのメンバーで構成された部会です。

今まで、権利擁護部会は、成年後見セ

ンターの設立に向けて長年議論を重ねてまいりました。その成年後見センターの設立が実現したことを受けて、今年度は、今後の権利擁護部会の在り方について議論を交わしました。

まだ検討中のため、詳細は差し控えますが、成年後見センターとの連携



権利擁護部会

はもちろん、権利擁護部会独自の役割として何ができるか、様々な観点から検討を重ねました。

また、今年度は、成年後見センターや宮古圏域基幹相談支援センターと連携して、2回セミナーを行いました。これによって、さらに皆さまに対して成年後見制度や障がい者虐待に関する情報を広めることができたと感じております。

今後も様々な機関と連携を図り、障がい者の権利擁護に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

生活支援部会

作山 裕彦さん

(岩手県立宮古恵風支援学校 高等部 進路指導主事)

生活支援部会は、障がい・高齢者福祉の専門職、地域福祉団体、行政職など様々な分野からのメンバーで構成されています。また、活動内容は障がい者の生活実態及び生活ニーズの把握、障がい者サービスの利用促進、あるいは障がい者雇用の普及など多岐にわたる議題を取り上げています。また、生活支援部会の主な活動として、地域懇談会があります。新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、宮古圏域4市町村それぞれの会場で地域の方々との懇談形式で実施することができました。山田町の地域懇談会では、訪問看護ステーションみそら宮古の小成祐介所長より「引きこもりについて知

ろう！」をテーマにご講演頂き、その後の懇談会では、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために必要なことについて意見交換を行いました。その場には、困り感もちながら、福祉サービスとの関りが無かった参加者の方もおられ、潜在ニーズの把握のための大切な場だと改めて感じました。



生活支援部会

精神保健部会

北村 昇一さん

(宮古山病院 医療福祉相談連携課)

精神保健部会では、主に精神障がいを抱える方々の、入所施設や精神科病院からの地域移行、そして、地域定着を推進するために、この地域



精神保健部会

の状況に合わせた支援体制を検討する活動を実施しております。具体的には、定例会を開催し、地域移行候補者の検討、地域移行者の状況の確認、精神障がいを抱える方々が地域生活を送る上で、解決が困難な課題に直面した際等の事例検討を実施しております。昨年、9月の定例会では、宮城県の社会福祉法人白石陽光園の伊藤真也様を招き、共生型グループホームに関して学び、11月には、三陸病院医療福祉連携室の芳賀志津子様、大久保知佳様に協力をいただき、地域移行病棟に関して情報提供してもらっております。定例会とは別に、「依存症の回復に向けて」をテーマに地域生活支援セミナーも実施し、地域の多数の住民の方々にも参加してもらっています。精神保健部会では、今後も、人と人のつながりを大切に、精神障がいがかかえた方々も住みやすい、地域づくりを目指した活動を展開したいと考えております。

発達支援部会

岡崎 薫さん

(社会福祉法人若竹会 障がい児・者一体型施設
新たな郷わかたけ 児童発達支援センター準備室)

発達支援部会は、発達が気になる子ども、障がいのある子ども、発達障がい者支援に関することのほか、医療的ケア児等の支援に関する協議の場としての役割を担っています。

7月には、岩手県医療的ケア児支援センター

の大力さんと岩手県障がい保健福祉課の高橋さんをお招きし、医療的ケア児支援の現状について情報の交換を行いました。

8月には、生活支援部会と合同で「発達障がい」と「思春期のこころ」をテーマに、この地域では、もうおなじみとなった前川あさ美先生(東京女子大学教授)の講演会を開催しました。午後からは、新たな試みとして、前川あさ美先生とかなしろにゃんこ。さんのトークショーを行いました。かなしろにゃんこ。さんは、発達障がいのある息子さんを育てた経験をコミックエッセイとして発信しておられる漫画家で、前川先生との掛け合いがとても楽しく好評でした。

11月には、医療的ケア児出張講座を受講しました。特に医ケア児のお母さんの1日を想像することによって、家族の大変さへの理解が深まりました。

また、同月に、多機能事業所とくたんの藤村さんからは、重症心身障がい児者の理解と支援についてお話しいただきました。支援者であり家族でもあった藤村さんのお話は、心に響くものがありました。

12月には、医療的ケア児等の家族懇談会を行い、障害児・者一体型施設 新たな郷わかたけの障害者支援施設かあむの佐々木さんから、施設の概要を説明して頂くと共に、ご家族から日々感じている想いや要望を伺いました。地域にとって社会資源の充実は重要であり、今後とも一緒に取り組んで行くべき課題だと感じました。

学びの機会の提供が中心となった今年度でした。次年度は、当事者や家族の方と触れ合える機会をさらに増やしていければと考えております。



発達支援部会

Report! 「福祉の現場から」

Report

ハツクの家」のパンフレット変更が必要な件

NPO法人ハツクの家 副理事長 竹下 敦子

「小さい村の小さい事業所ハツクの家」という言葉で始まるハツクのキャッチコピーは福祉作業所時代からずっと使ってきた言葉です。この原稿依頼をいただき改めて事業所のことを考えたところ、あまり出回っていないレア過ぎるハツクのパンプレットのキャッチコピーの変更が必要という重大事に気が付いてしまいました。

当法人には6事業所が存在します。田野畑村には、「働く」を応援する就労継続支援



(B型) 事業所「ハツクの家」と、「暮す」を応援する共同生活援助事業所「manu」があります。ハツクの家は、花咲き織り工房、菓子製造販売「ハツクパン」、ルアー製造工房があります。咲き織りは、基本的には事業所で販売しているのですが、年に4〜6回県外で展示即売をしています。ハツクパンは、ロレオール田野畑（すぐおいしいので皆様ぜひ食べに行ってくださいね。完全予約制です。）でバゲットを使っていただいています。また、クリスマスは数量限定のシュトーレンで大忙しになります。

普代村には、就労継続支援（B型）事業所「ピーターズバグ」があります。普代村の三陸鉄道の駅構内にあり、平日のみですがランチを提供しています。旅の際はぜひお立ち寄りください。この事業所の2階に「ハツクのサポートセンター」があり、相談を面白おじさんが1人で受け付けています。

野田村には、育ちを応援する放課後等デイサービス事業所「ピーターズ・キッズ」があります。保護者の皆さんと一緒に作った遊具は子どもたちのお気に入りです、なかなか見ごたえがあります。



盛岡では、共同生活援助事業所「manu盛岡」があります。日々の生活で困難を感じている皆さんをサポートしています。

そんな私たちのキャッチフレーズは「小さな地域の小さな事業所の集団：(案)」としたいと思います。来年は、3事業所とアンテナショップが加わりさらに楽しく皆様の街をお騒がせする予定です。皆様ぜひ遊びに来てください。

はあとある Voice (当事者の声)

『これから、ここから、』

カラフルライフ★後編

社会福祉士 大野 みぎわさん

第36号と第37号の2号に渡り特別編としてお送りします。岩泉町で被災者相談支援やNPO法人クチエカで相談支援専門員として活動していた大野さん、岩泉町を離れどのような変化があったのか…この3年間の思いを綴っていただきました。

脳出血発症時、私は39歳。入院中に担当のMSWと必要な福祉サービスの手続きを行いました。

暮らしの目標設定を行う際に大切なのは「自分はどうかありたい」か。身の回りのことや身だしなみは自分でやりたい。私の場合は、時間が掛かっても、安心してひとりで行ける環境づくりを目指すことが第一でした。外出も連れて行って欲しいのではなくて、自分で行けるようになりたい。そこに焦点を当ててリハビリを行っています。家の中ばかりにいるから「外へ行く機会を」と移動支援サービスを使ってみては？ひとりでの家事は大変だろうから、ヘルパーを使ってみては？とケアマネから提案もありましたが断っています。やってもらいたいわけじゃない。外出して楽しめる体力や心のゆとりができてから出掛けたい。家事も自分で工夫しながらやっています。達成の喜びが自信に繋がるから。

今は、デイサービスと訪問リハビリや訪問鍼灸を担当してくれているセラピスト達と相談しながら、目標達成に必要な課題をひとつひとつクリアしていています。

チームリハビリの真ん中は自分。

どんな声かけが嬉しいかなあとか考えてみましたが、本人の暗中模索な心情を知る必要があるなあと感じています。どんな言葉でも相手との関係性で変わるなあと思ったので、基本に戻ってラポール形成が大事との結論に至っています。

気の利いた言葉とか例えとかでなくていい。

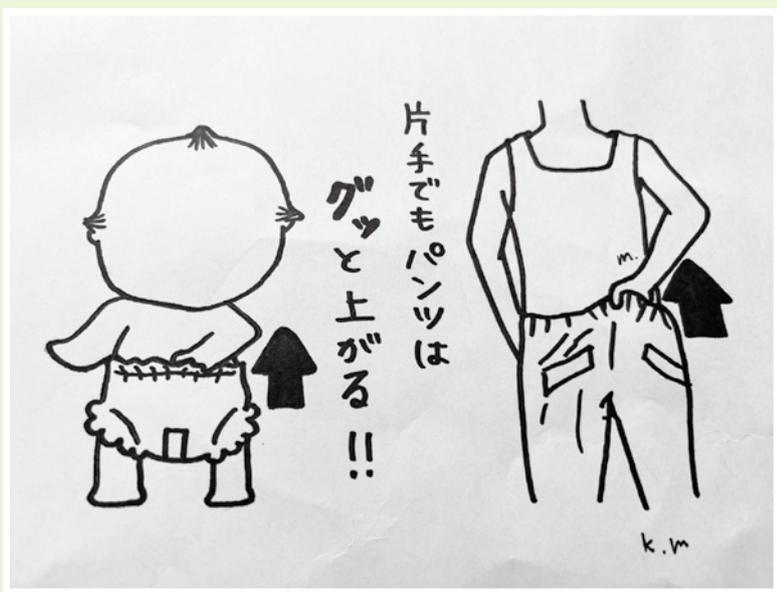
今は杖を使って歩くことが出来るようになり、不自由ながらも

自分の暮らしが好きな色に染まるよう、できること・できないことの取捨選択を繰り返しています。小さなことでも、できたことがひとつ増えるとやっぱり嬉しいです。色の選択肢が増えれば、色の組み合わせで新しい色を創ることが出来る。

私達を取り巻く環境が、ニーズを抱える人達が好きな色を見つけていることができる、そんな社会であればなあと思いながら暮らしています。暮らしの色を創るのは本人でもあり、支援者でもあると思っています。

Let's make our life so colorful!

今の私の大きなリハビリ目標は、いつか岩泉町を再訪して、離れる前に挨拶できなかつた友人達に会いに行くことです。宮古市も☆ですね！



片手でもパンツは

グッと上げる!!

トイレ自立に役立ったスキル。
手の甲を仙骨辺りに添えるイメージで、引き上げる！

支援センター「みやこ」です!



に、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・との連携強化のための調整、ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。



クリスマスツリーのオブジェ作り
(表現活動)



ネイルサロンで心もうきうき♪
(女性当事者の会：チューリップの会)



冷やし中華作り&会食で交流♪
(みんなで交流会 2023 夏)



なあとへ散策。海を眺めてリフレッシュ!
(趣味サークル)

はあとふるギャラリー

「地活みやこ」では、感染症対策を続けながら様々な活動を行っております。活動の参加者からは、「今度は○○をやってみたいな〜」といったリクエストもいただいております。今後も地活を利用する皆様からの声を大切にしながら、活動を企画・運営してまいりたいと思っております。



支援員 千崎 啓二

8月からレインボーネットにお世話になっております。これまで生活介護・介護保健の相談業務を中心に携わってきました。今の障がい者支援は私にとって未知の世界ですが、自分の見聞を広げて自己研鑽のチャンスと思い頑張っていきます。

私は、若い頃は柔道・ラグビーに夢になっておりましたが、今は観戦の方に専念しております。釜石のラグビー・仙台のプロ野球と、実際スタンドに行きたいと思っております。



支援員 蒲野 彩子

10月から若竹会より出向し、レインボーネットに配属となりました。施設勤務が長く、地域生活の支援業務はとても久しぶりです。わからないことや不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることもあると思います。利用者の皆さんのお話をしっかりと伺い、気持ちに寄り添いながら支援できるよう、さらに新たな知識を吸収して頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

新任職員紹介





こんにちは、「地域活動

「地域活動支援センターみやこ」では、障がい者等(身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児及び難病等)を対象にピアカウンセリング等の活動、各種サークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉および地域の社会基盤

はあとふるフェスタ2023、開催しました!



11月20日(月)～24日(金)の5日間、イーストピアみやこ2階を会場に「はあとふるフェスタ2023」を開催いたしました。今年度も『ともに生きる社会へ』をテーマに、絵画・立体工作・折り紙作品・染物等の様々な作品展示や、各事業所や当事者団体の取り組みの紹介を行いました。また、23日(祝)には映画上映も行い、障がい福祉への興味・関心・理解をより一層深めていただくことができたのではないかと思います。

ここで、ご来場者からの感想の一部を紹介いたします。

◇作品展示

- ・「繊細だったり、ダイナミックだったり、それぞれにすばらしいですね!」
- ・「ハックの家の作品をみて、集中力がすごいと思った。」
- ・「昔より地域に出ている方が増えた事を知った。今後もがんばってください。」
- ・「事業所がこんなにたくさんあるなんて知らなかった。どの作品も一生懸命作ったんだな、と感じた。」
- ・「娘から「〇〇を作ったよ」と聞いていたが、実際にみて、がんばって作ったことが分かったのが良かった。展示の機会があることは、親にとってありがたいです。」

◇映画上映

- ・「映画、良かったです!それぞれの立場でいろいろな問題があるんだなと思った。」
- ・「親子の関係性が良いと感じる、心温まる映画だった。」



～ご来場、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます～

はあとふるフェスタ2023の内容

◆作品展示

- ・宮古圏域内障がい福祉事業所活動作品
- ・市内在住アーティスト2名の方の作品
- ・地域活動支援センターみやこ活動作品

◆宮古圏域内障がい福祉事業所紹介

◆宮古圏域障がい当事者団体ネットワーク活動紹介

◆映画上映会 「梅切らぬバカ」(2回上映)

母親と自閉症を抱える息子が、社会の中で生きていく様子が温かく誠実に描かれている作品。



来場者の様子



地活センターみやこ 作品



作品展示



たくさんの方に
ご来場いただきました
ありがとうございました

なんでも KEIJIBAN

社会資源ガイドまっぴ

このたび、レインボーネットでは「宮古圏域・障がい福祉等 社会資源ガイドまっぴ」を改訂いたしました。前回の改訂から4年が経過しており、宮古圏域には新たな事業所なども増えました。現在の宮古圏域の事業所や関係機関の最新情報などを掲載しています。

利用される皆さんにとって「より見やすく、わかりやすく」を意識し作成致しました。

障がいのある方が地域で安心して暮らせるように、また、地域の社会資源を知ってもらえるように、このガイドまっぴを活用して頂ければ幸いです。ご希望の方は、レインボーネットにお声掛けください。

また、この冊子を作成するにあたり、ご協力頂いた関係各所の皆様方に深く感謝申し上げます。



●問い合わせ先 レインボーネット事務局
TEL 0193-764-7878
FAX 0193-776-3921

令和5年度会費のご協力ありがとうございました!

- 会員数の状況 (令和5年11月30日現在)
 - 個人会員 81名 (正会員 67名・賛助会員 14名)
 - 団体会員 40団体 (正会員 31団体・賛助会員 9団体)
- 団体会員のご紹介 (令和5年11月30日現在・順不同)

会員募集中です!
よろしく願い
いたします。



団体名	
一般社団法人 フロムいわてソリューション	いわて高次脳機能障がい友の会 イーハトープ沿岸地区
NPO法人 ハックの家	岩手県社会福祉事業団 救護施設松山荘
ジョブ・パートナー山田	宮古市末広町商店街振興組合
県北緑化 株式会社	山田町手をつなぐ育成会
障がい者支援施設 望みの園はまなす	宮古市社会福祉協議会
宮古市身体障害者福祉会	医療法人財団正清会 三陸病院
翔友 みやこワーク・ステーション	社団医療法人新和会 宮古山病院
ワークハウスアトリエSun	若竹会 わかたけ学園
みやこ手をつなぐ育成会	若竹会 自立生活支援センターウイリー
NPO法人 きぼうハウス	若竹会 SEL Pわかたけ
フリースクール花鶏学苑	若竹会 あっとほむむ Life みやこ
岩手県立宮古恵風支援学校	若竹会 ワークプラザみやこ
自立更生会 宮古アビリティセンター	若竹会 らいず
新里紫桐会 工房まんさく	若竹会 かあむ
岩泉町社会福祉協議会 いずみの里	若竹会 地域生活支援拠点つむぎ
グループホームうららか	
株式会社 フロムいわて	イーハトープとりもと
みやこボランティア連絡協議会	岩泉町身体障害者福祉協会
職業訓練法人 宮古職業訓練協会	あおば会 あおば工房
株式会社 川井産業振興公社	社会福祉法人 田老和心会
宮古・山田訪問看護ステーションゆずる	

かい いん ぼ しゅう 会員募集

かい いん しゅるい ねんかいひ
会員の種類と年会費
について

個人	
正会員	1,000円
賛助会員	500円
団体	
正会員	5,000円
賛助会員	1,000円



◆発行 NPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット(レインボーネット) 岩手県宮古市緑ヶ丘2番3号 はあとふるセンターみやここーぷ TEL 0193-64-7878 FAX 0193-77-3921 E-mail info@nyako-rainbow.com URL http://www.nyako-rainbow.com/ ◆発行責任者 会長 刈屋裕之 ◆企画・編集 レインボーネット事務局

編集後記

先を見通して準備することが苦手な私：自身のことだけでなく、仕事のことでも後手後手になってしまいがちです。今回、機関紙執筆のことでは余裕をもって依頼したつもりでしたが、肝心のメールが届いていなかったとのこと。今年こそは！と強く願うばかりです。
【佐々木】

最近よく耳にする「粒方倍日」と「天赦日」の二つが重なる日は最高の開運日なのだそう。そんな特別な日が今年なんと4日もあるんですって！特にお金関係や、仕事などのスキルアップを目的にした行動、恋愛・結婚関係には吉な日とのこと。この日を自安に一年の大まかなスケジュールを立ててみるのもいいかもしれませんね!
【天四】

寒い冬がやってきました。といっても、最近では温暖化と言われており、今年の冬は寒いと暖かいのが交互にやってくるそうです。ニュースでみました。寒暖差が激しいと体調を崩しやすいです。野菜とお魚やお肉など、バランスの取れた栄養を取って、お互い健康第一に過ごしましょう!
【榎栢】